

SUPER GT 2025 SERIES ROUND 3 MALAYSIA REPORT




RESULT

予選 **DEL**

Q1 : ケイ・コッツォリーノ (No Time)
Q2 : 篠原 拓朗 (No Time)

決勝 **14th**

ベストラップ
2'02.215 / ケイ・コッツォリーノ

2024年からSUPER GTに挑戦を開始したPONOS RACINGにとって、12年ぶりの開催となったマレーシア大会は初めての海外戦となった。木曜日の初日からエンジントラブルを始め大小様々なトラブルが発生する中で、公式予選でのエンジントラブルに起因するブースト圧制限超過によるタイム抹消となり決勝はピットレーンスタートを余儀なくされる。そのような状況下でもポイント獲得まで引き上げたチーム力は、次戦Rd.4富士でも必ず武器になってくだろう。

DRIVER RANKING **14th** (16points) TEAM RANKING **11th** (25points)



ケイ
コッツォリーノ

Kei Cozzolino 



篠原 拓朗

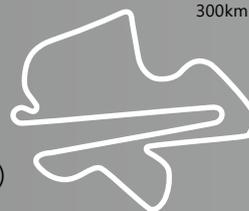
Takuro Shinohara 




DATA

開催サーキット：セパン・インターナショナル・サーキット (1周 5.542km)
日時：6月27日(金) / 28日(土)
天候：27日：曇り / 28日：曇り
来場人数：75,977人 (27日：28,524人 / 28日：47,453人)

SEPANG
INTERNATIONAL CIRCUIT
300km Race



予選 / QUALIFYING

天候:曇り / 気温:32.3℃
路面温度:39.6℃12年ぶりのセパン開催。
PONOS RACINGに試練の予選日

6月27日(金)、12年ぶりのSUPER GT開催となったマレーシア・セパン国際サーキットで予選が行われた。例年にない熱気とともに多くの来場者が集まり、久々のマレーシア大会にサーキットは活気に包まれた。

このマレーシア大会は、PONOS RACINGにとって初めて挑む海外での一戦。篠原拓朗にとっても初走行となるセパン国際サーキットで、公式練習ではケイ・コッツォリーノが先にステアリングを握り、17周を走破。その後マシンを引き継いだ篠原拓朗が5周を追加し、2人で合計22周を消化した。

天候は曇りながら気温32.3℃、路面温度は39.6℃と、マシンにもドライバーにも厳しいコンディション。そんな中、午後からの公式予選Q1ではケイ・コッツォリーノが2分03秒304をマークし、堂々の2位を獲得。続くQ2では篠原拓朗が2分04秒134を記録し、全体で10位となる結果を残した。

ところが予選終了後、エンジントラブルを起因とした車

検違反発覚。これにより、両セッションのタイムがすべて抹消されるという厳しい裁定が下され、決勝はピットスタートとなった。

新たな舞台に挑むPONOS FERRARI 296とふたりのドライバーにとって、決して簡単な一日ではなかった。しかし未知のコースで掴んだ確かな手応えと、Q1で見せたスピードは確実にチームの実力を示していた。逆境からの巻き返しに注目が集まる決勝。PONOS RACINGの真価が問われる戦いは、ここから始まる。



DRIVERS' COMMENTS

ケイ・コッツォリーノ

 Kei Cozzolino

全体でも上位のタイムを出すことができたので、まずまずの公式予選になったと思います。

ただ、まだ完全に車をトラックヘアジャストさせきれていない部分もありましたので、公式練習2回目と公式予選を通して得ることができたデータをしっかりと活かしながら、明日の決勝に向けて、さらに良いマシンへ仕上げていきたいです。



篠原 拓朗

 Takuro Shinohara

今日初めてセパン国際サーキットを走り、とても楽しくドライブできるサーキットだなと印象を持ちました。

ただ公式予選に関しては、いろいろと難しく厳しい結果となりました。公式練習と予選を通じ、コースに合わせていける手応えを掴むことができたので、明日のタイヤ戦略によっては良い結果を掴むことも可能だと思います。



決勝 / RACE

天候:曇り / 気温:33℃
路面温度:42℃

幾重の不運。

苦境からの力強い追い上げで掴んだ14位。

6月28日(土)、マレーシア・セパン国際サーキットで行われた SUPER GT Rd.3 マレーシア大会・決勝は、曇り空の下、気温33℃、路面温度42℃のツブなコンディションとなった。前日の予選全タイム抹消のペナルティを受け、全車スタート後のピットスタートからの決勝となった。

篠原拓朗がファーストドライバー。スタート時点で約30秒のハンデを背負いながら、コースイン。序盤は慎重にペースを刻みつつ、徐々に差を削っていった。初めてのセパン国際サーキットにも関わらず、路面のグリップ変動が大きい中、タイヤを労わりながら安定した走りを見せ、着実に前方を追い詰め、2台を追い抜くファーストスティントとなった。

25周目にピットインを敢行し、篠原拓朗からケイ・コッツォリーノへスイッチ。ケイ・コッツォリーノはタイヤのデグラデーションを抑えつつも積極的にプッシュを続け、この日のチームベストラップタイムとなる2分05秒215も記録した。レース終盤には、19位からのスタートに

も関わらず両ドライバーの奮闘もあり、最終ラップでは13位のマシンに0.304秒差まで迫る粘りと速さを見せつけ14位でのフィニッシュに終わった。

木曜日から度重なって発生するトラブルを乗り越え、両ドライバーとチーム全員でマシン性能と戦略を最大限引き出し、諦めない走りを買った結果、無事完走しポイントまで獲得する事ができたことはポジティブな収穫だ。次戦Rd.4富士に向けてチームはすでに万全な体制を整え始めている。



DRIVERS' COMMENTS

ケイ・コッツォリーノ

 Kei Cozzolino

ポイントを無事獲得できて、ひとまず良かったと思っています。ピットレーンスタートの際のタイヤ交換でタイヤガンが壊れた影響もあり、30秒以上のロスが生まれてしまいました。

もしそれがなかったらトップ10にも入れたと思うと、非常に悔しいです。ただレースペースの内容的なところで行くと、PONOS RACINGとして1番良いレースになったと感じます。まずはダンロップさん含めたチームの皆様に、早い車を作ってくれたことに感謝したいです。



篠原 拓朗

 Takuro Shinohara

ピットレーンスタートからとなり、今回はタイヤやセッティングを大きく変更し、色々な面で新たな出発点の様な形で決勝に臨みました。マシンもタイヤも非常に良い状態に仕上げてくれ、とても良いペースでレースができたと思います。

スタート時のタイヤ交換トラブルによりロスしてしまいましたが、それ以外は本当に素晴らしい環境の中で走れたと思います。自分自身の課題はまだ多くあると感じているので、そこは引き続き気を引き締めて次戦の第4戦以降に活かしたいと思っています。





DIRECTORS' COMMENTS



チーム総監督

辻子依旦

Yorikatsu TSUJIKO

チームとして初めてのセパンインターナショナルサーキットでしたが、最初に大きなマシントラブルに見合い周回を重ねることができず、出だしに大きくつまずきました。応急処置をして予選に挑みましたがトラブルが再発し、結果車検違反により予選失格という厳しい状況でレースに挑むことに。ただこれにより最後尾スタートとなり今まで試すタイミングがなかった新しいセットを試すことができ、結果これが脅威のレースペースでポイント圏内の順位まであげることに成功し、これからにとって大きな収穫を得ることができたレースとなりました。



チーム監督

小河原宏一

Koichi OGAWARA

12年ぶりのSUPER GTマレーシア大会でしたが、PONOS RACINGとしては初めての海外戦でもあり、準備に少しドタバタがあったと振り返っています。木曜日の公式練習1回目からエンジントラブルが発生し、車のセットアップを合わせこむところまでいけなかった中でも、Q1までは良いタイムが残せたかと思っています。ブーストのトラブルもあって最後尾からレースを始めなければいけませんでした。決勝は非常にうまく進めることができました。レースペースも良く、次戦のRd.4富士以降に繋がるレースになったと思います。

PARTNERS

OURO

ブランド高価買取店

SEVENS

 Extreme Fight Game
RISE

IBG Media

A CLINIC

READ
PROJECT OCEAN